

スコットランドにおける認知症の人への人権ベースの  
リハビリテーション政策の生成過程－認知症当事者との協働に着目して－

田島明子

聖隷クリストファー大学

1. 目的 スコットランドでは、認知症当事者の活発な活動との協働を行い、リハビリテーションの役割においても認知症当事者の意見が反映され、2016年には、第3次認知症国家戦略のなかに認知症の人の人権ベースのアプローチ（Rights Based Approach ; RBA）として、“Connecting People Connecting Support”（CPCS）がコンセプト化され、Allied Health Professions（AHP）の役割が明記された。AHPは、スコットランドNHSにおける、リハビリテーションコワーカーの組織であるが、その中には、作業療法士のほかにも、理学療法士、言語聴覚士、義肢装具士などが含まれる。こうした過程において、行政や地域、あるいは病院でリーダーシップを担ってきた作業療法士の影響力が大きかったと2018年3月に現地の作業療法士にインタビューをした際に伺った。そこで本研究では、第3次認知症国家戦略内にリハビリテーションの役割が明記されるに至るまでの作業療法士による認知症当事者や同・他職種との連携、各組織での影響等を通じた過程を明らかにすることを目的とし、認知症当事者との連携・協働の在り方について考察した。

2. 対象と方法 対象は、スコットランドで作業療法士（OT）として働く2名。2名は上司（A氏）と部

下（B氏）の関係である。また、2名とも政府がスコットランド・アルツハイマー病協会で行うAHP職員を募集した際に応募したところ採用されており、出向という形で働いている。また、A氏は、第3次認知症国家戦略におけるCPCSの作成過程に関与した。また、B氏は、その中の具体的実践手法としてなされているHome Based Memory Approachの実践・普及を進めている。方法：2019年2月18日、14時～16時まで、スコットランド・アルツハイマー病協会のオフィスにて話を伺った。A氏、B氏、通訳者、同行した日本人作業療法士、田島が同席し、田島がインタビュイーとして、A氏に1時間、B氏に1時間話を伺った。なお、会話は許可を得てICレコーダーにて録音した。

3. 結果 エビデンスに基づいたポリシーづくりを行いたいと思い、当事者から話を聞く機会を数回持ってきた。当事者はスコットランド・アルツハイマー病協会が運営するサービスセンターで紹介を受け参加をしている。規模は50人～150人程度まで様々であった。どうしたら自分たちの暮らしが暮らしやすくなるかヒントを求めて集ってきた人たちであった。1年に1度アウェアネス・ウィークを設けることにし、これがCPCSにつながっている。今後もそれは継続していきたいとのことだった。最も大事なことは本人、家族にとってのアクセシビリティであることが明らかになった。A氏は当事者と会話を持ったことが何より重要であると捉えていた。また、CPCSの成果は多職種との連携が取りやすくなったことと捉えていた。実際はOTの人数が多く期待されていることも多いため、今後OTが中心となって連携のあり方を明確化する必要があるとのことだった。

倫理審査	■承認番号（18064） □該当しない	
利益相反	■なし □あり（ ）	
発表状況	種別	□著書 □論文 □学会発表 □紀要 ■その他（作業療法ジャーナル）
	年月日	2019年9月（□確定 ■予定）